

スリランカ

Democratic Socialist Republic of Sri Lanka

	2012年	2013年	2014年
①人口：2,068万人（2014年）			
②面積：6万5,610km ²			
③1人当たりGDP：3,625米ドル （2014年）			
④実質GDP成長率（%）	6.3	7.2	7.4
⑤消費者物価上昇率（%）	7.6	6.9	3.3
⑥失業率（%）	4.0	4.4	4.3
⑦貿易収支（100万米ドル）	△9,417	△7,609	△8,287
⑧経常収支（100万米ドル）	△3,982	△2,541	△2,018
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	7,106	7,495	8,208
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	37,098	39,905	42,988
⑪為替レート（1米ドルにつき、 スリランカ・ルピー、期中平均）	127.60	129.11	130.56

〔注〕2014年は暫定値、⑦：国際収支ベース（財のみ）
〔出所〕スリランカ中央銀行「Annual Report 2014」

2014年のスリランカ経済は、工業、卸・小売業が成長を牽引し、実質GDP成長率が前年を上回る7.4%と高成長を維持した。また、1人当たりGDPは3,625ドルに達した。消費拡大による輸入増加のために貿易赤字は拡大したが、経常収支赤字はサービス貿易や出稼ぎ労働者からの海外送金の拡大により縮小した。対内直接投資はインフラ関連投資が多く、前年比9.8%増だった。日本との関係では中古車輸入の急増と、対内直接投資の減少が目立った。

■ 1人当たりGDPは中進国入り目前

2014年から2015年にかけては政治が大きく動いた。2014年にはラージャパクサ前大統領が3期目の続投を目指して大統領選挙の繰り上げ実施を決定し、前大統領の当選が見込まれていた。しかし2015年1月の大統領選挙の結果、シリセナ氏が第7代大統領に就任し、9年間続い

表1 スリランカの需要項目別・産業別実質GDP成長率

		2013年		2014年	
		成長率	構成比	成長率	構成比
実質GDP成長率		7.2		7.4	
需要項目別	消費	3.2		7.6	
	国内総固定資本形成	9.2		2.2	
	財貨・サービスの輸出	5.9		4.9	
	財貨・サービスの輸入	△0.3		9.5	
産業別	農林水産業	4.7	10.8	0.3	10.1
	農林業	4.5	9.5	△0.2	8.8
	水産業	6.2	1.3	4.5	1.3
	鉱工業	9.9	31.1	11.4	32.3
	鉱業	11.5	2.9	11.0	3.0
	製造業	7.5	17.1	8.0	17.2
	電力・ガス・水道	10.3	2.4	4.5	2.4
	建設業	14.4	8.7	20.2	9.7
	サービス業	6.4	58.1	6.5	57.6
	卸・小売業	5.5	22.7	8.0	22.8
	ホテル・レストラン	22.3	0.8	11.5	0.8
	運輸・通信業	9.4	14.6	7.3	14.6
	銀行・保険・不動産	5.9	8.7	6.6	8.7
	住宅・宅地所有	2.9	2.4	1.3	2.3
	行政サービス	2.8	6.5	1.4	6.2
個人サービス	7.3	2.3	5.4	2.3	

〔注〕2014年は暫定値。

〔出所〕スリランカ中央銀行「Annual Report 2014」

たラージャパクサ前政権から平和裏に政権が移行された。新政権はバランス重視の外交・経済政策を掲げており、従来の中国寄りの外交に変化がみられつつある。

2014年の実質GDP成長率は7.4%と前年比0.2ポイント上昇し、前年に続いて高成長を維持した。中央銀行の予測値7.8%、アジア開発銀行の予測値7.5%をいずれも下回ったが、IMFの予測値7.0%は上回った。

農林水産業は、中部地方で発生した大規模な洪水被害の影響を受けて、主力産品である紅茶の生産が落ち込んだため、前年を下回る0.3%増と伸び悩んだ。GDPの32.3%を占める鉱工業は11.4%増と、前年の9.9%増を上回る高成長となった。このうち最大を占める製造業は8.0%増と前年を上回る伸び率だった。また、鉱工業のうち建設業は20.2%増となり、主にホテルの建設ラッシュにより全産業の中で最大の伸びを示した。GDPの57.6%を占めるサービス業は6.5%増で、前年の6.4%増をわずかに上回った。特に卸・小売業（8.0%増）、運輸・通信業（7.3%増）、銀行・保険・不動産業（6.6%増）が好調だった。GDP構成比は0.8%と小さいが、ホテル・レストラン業が前年の22.3%増を下回ったものの11.5%増となり、外国人観光客の増加で急成長している。中央銀行の統計によれば、客室稼働率の上昇（前年の71.7%から74.3%）や旅行収支受け取りの増加（前年比121.8%増）がみられる。

1人当たりGDPは前年比10.5%増の3,625ドルとなり、3,000ドルの大台を突破して3,280ドルとなった前年（12.3%増）に続いて高い伸びを示した。南西アジア各国

と比べて突出しているだけでなく、インドネシアの3,534ドル（IMF統計、2014年）、フィリピンの2,865ドル（同）を上回る水準にある。スリランカ政府は「中進国」（国連・世界銀行の定義で1人当たりGNIが3,976ドル以上、6,925ドル以下）入りを目指している。政府の中期マクロ経済フレームワークによると、2015年の1人当たりGDPは4,009ドルと見込まれており、2015年も7%台の成長を維持できれば達成可能な勢いだ。

消費者物価上昇率は3.3%となり、過去4年間の平均上昇率の6.9%と比べ収束してきた。中央銀行によると、2014年下期に電力、水道、液化石油ガス（LPG）やガソリン価格が引き下げられたほか、政府の慎重な金融政策運営や的確な財政措置、国際商品価格の安定、比較的安定した為替レートなどもその低下に寄与したとされる。

2014年の国際収支をみると、輸入増で貿易赤字が前年の76億900万ドルから82億8,700万ドルに拡大した。しかし海外労働者の本国送金が10.3%増の61億9,900万ドル、サービス貿易収支のうち旅行収支受け取りが121.8%増の11億6,900万ドルと増加したことを受けて、経常収支の赤字は前年の25億4,100万ドル（GDP比3.8%）から20億1,800万ドル（GDP比2.7%）に縮小した。

■旺盛な内需で貿易赤字は拡大

貿易は、輸出が前年比7.1%増の111億3,010万ドル、輸入は7.9%増の194億1,680万ドルとなり、貿易赤字額は8.9%増の82億8,670万ドルに拡大した。

輸出は繊維製品・衣料品と紅茶が58.9%を占めた。繊維製品・衣料品（9.4%増）が増加した理由は、製品の品質と労働基準の順守が評価され、欧米諸国からの受注が増えたことによる。紅茶輸出の約6割を占めるロシアと中東諸国向けが原油価格下落による経済悪化のため、それらの国々向けは前年の10.5%増から6.6%増へと伸び率が低下した。他方で、高価格な紅茶に対する需要増により、平均輸出価格は前年比3.1%上昇した。ココナツの輸出増は、好天で収穫増となったことによる。

国・地域別では、輸出額が多い順に米国（9.5%増）、英国（3.5%増）、インド（14.9%増）が増加したほか、フランスとトルコ（ともに35.4%増）が大幅増となった。うち35年連続で輸出先1位となった米国向けは、輸出額の72.9%を繊維製品・衣料品が占め、英国向けも80.9%が繊維製品・衣料品である。インド向けの主な品目は、機械・機器、輸送用機械、香辛料である。日本向けは前年比5.8%増だった。輸出総額の55.9%が米国およびEU向けであり、5年前と比べて米国、アジア、その他向けが増加しているが、輸出市場の多様化が課題である。

輸入は、2012年に講じられた政府の輸入抑制策が奏功

表2 スリランカの主要品目別輸出入<通関ベース>

（単位：100万ドル、%）

	輸出 (FOB)			
	2013年 金額	2014年		
	金額	金額	構成比	伸び率
工業製品	7,749	8,262	74.2	6.6
繊維製品・衣料品	4,508	4,930	44.3	9.4
ゴム製品	888	890	8.0	0.2
宝石・ダイヤモンド・宝飾品類	446	394	3.5	△11.7
機械・機器	312	343	3.1	9.8
石油製品	428	338	3.0	△21.0
食品・飲料・たばこ	235	289	2.6	23.0
輸送用機械	146	152	1.4	3.7
皮革・旅行用品・履物	77	139	1.2	80.8
農水産品	2,581	2,794	25.1	8.2
紅茶	1,542	1,628	14.6	5.6
ココナツ	205	356	3.2	74.2
香辛料	355	265	2.4	△25.6
水産物	234	253	2.3	8.1
ゴム	71	45	0.4	△36.5
鉱業品	52	60	0.5	15.3
合計（その他含む）	10,394	11,130	100.0	7.1
	輸入 (CIF)			
	2013年 金額	2014年		
	金額	金額	構成比	伸び率
消費財	3,183	3,853	19.8	21.1
食料品・飲料品	1,368	1,634	8.4	19.4
乳製品	291	339	1.7	16.6
コメ	18	282	1.5	1,473.9
砂糖・砂糖菓子	291	257	1.3	△11.5
その他	769	756	3.9	△1.7
その他消費財	1,814	2,219	11.4	22.3
自動車	582	897	4.6	54.0
医薬品	378	381	2.0	0.6
衣類・アクセサリ	202	283	1.5	40.2
中間財	10,554	11,398	58.7	8.0
石油製品	4,308	4,597	23.7	6.7
化学製品	734	808	4.2	10.1
小麦・トウモロコシ	323	405	2.1	25.2
肥料	239	272	1.4	14.1
ダイヤモンド・貴金属	483	175	0.9	△63.7
資本財	4,253	4,152	21.4	△2.4
機械・機器	2,222	2,131	11.0	△4.1
建設資材	1,357	1,309	6.7	△3.6
輸送用機械	668	707	3.6	5.9
合計（その他含む）	18,003	19,417	100.0	7.9

〔注〕2014年は暫定値。

〔出所〕スリランカ中央銀行「Annual Report 2014」

して過去2年にわたり減少したが、2014年は国内消費の拡大に伴い、コメや自動車、衣類・アクセサリなどが輸入額を押し上げた。消費財では、自動車が前年比54.0%増と急増した。これは2014年下期に打ち出された自動車輸入税の減税措置と主要輸入先である日本の中古自動車が円安で価格が下がったことなどから、個人向け乗用車の輸入が増加したことによる。スリランカの自動車（HSコード8703類）輸入をみると、日本の構成比が全体の72.1%、次いでインド17.3%、ドイツ4.7%となっている。この他、構成比は小さいが、衣類・アクセサリも40.2%増となった。15.7倍となったコメは、悪天候の影響により国内生産が減少したための緊急的な輸入急増であった。

表3 スリランカの主要国・地域別輸出入<通関ベース>
(単位:100万ドル、%)

輸出 (FOB)				
	2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率
米国	2,494	2,731	24.5	9.5
英国	1,078	1,116	10.0	3.5
インド	544	625	5.6	14.9
イタリア	511	614	5.5	20.2
ドイツ	468	498	4.5	6.4
ベルギー、ルクセンブルク	449	316	2.8	△29.6
アラブ首長国連邦	237	277	2.5	16.9
ロシア	280	274	2.5	△2.1
フランス	195	264	2.4	35.4
トルコ	192	260	2.3	35.4
日本	224	237	2.1	5.8
EU	3,273	3,492	31.4	6.7
SAARC	773	882	7.9	14.1
合計 (その他含む)	10,394	11,130	100.0	7.1
輸入 (CIF)				
	2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率
インド	3,171	4,023	20.7	26.9
中国	2,953	3,494	18.0	18.3
アラブ首長国連邦	1,179	1,838	9.5	55.9
シンガポール	1,682	1,260	6.5	△25.1
日本	668	941	4.8	40.9
マレーシア	570	745	3.8	30.7
オマーン	772	560	2.9	△27.5
米国	416	492	2.5	18.3
インドネシア	439	451	2.3	2.7
台湾	435	443	2.3	1.8
タイ	437	442	2.3	1.1
EU	1,665	1,588	8.2	△4.6
SAARC	3,587	4,339	22.3	21.0
合計 (その他含む)	18,003	19,417	100.0	7.9

[注] ①2014年は暫定値。

②SAARC (南アジア地域協力連合) は、インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、モルディブ、アフガニスタン。

[出所] スリランカ中央銀行「Annual Report 2014」

輸入額の58.7%を占める中間財では、石油製品の伸びが目立った。2014年下期に原油の国際価格が急落したものの、火力発電所の増設に伴う需要増のために輸入額は前年比6.7%増となった。資本財は機械・機器4.1%減、建設資材3.6%減の影響を受けて2.4%減となった。建設資材の輸入減は、中央銀行の年次報告書によれば、第4四半期の悪天候による作業遅延によりセメントクリンカーの輸入が6.3%減となったためである。輸送用機器はバスやオート三輪の輸入増により前年比5.9%増となった。

国・地域別の輸入をみると、インドが1位 (40億2,300万ドル)、中国が2位 (34億9,400万ドル) と前年同様であった。インドは輸入総額の20.7%を占め、主要品目は金額順に石油製品 (64.6%増)、自動車とその部品 (37.3%増)、セメント原料 (54.3%増) であった。中国からの主要品目は綿織物、石油製品、工学機器、鉄鋼製品だった。3位のアラブ首長国連邦からは、石油製品が87.1%を占めた。4位はシンガポールで前年から一つ順位を下げた。5

位は日本で前年6位より順位を上げた。これは、日本からの輸入の約6割を占める自動車輸入が前年比66.8%増となったことによる。

■中国・スリランカFTAが正式に交渉開始

貿易協定については、二国間ではインド (2000年3月発効) とパキスタン (2005年6月発効) と二つのFTAを締結し、多国間では南アジア自由貿易地域 (SAFTA、2006年1月発効) に参加している。インド・スリランカFTA (ISFTA) を利用した輸出額は前年比2.5%増の3億7,600万ドルとなり、インド向け輸出額の6割を占めた。パキスタン・スリランカFTA (PSFTA) を利用した輸出額は5,200万ドルとなり、パキスタン向け輸出額の7割を占めた。中国・スリランカFTA (CSFTA) については、2014年9月から交渉が開始された。

■中国からの対内直接投資が引き続き1位に

2014年のスリランカへの対内直接投資額 (スリランカ投資庁認可企業ベース、実行額、ネット、フロー) は前年比9.8%増の15億2,840万ドルとなり、2011年から4年連続で増加した。

業種別ではインフラ関連投資が全体の44.7%の6億8,250万ドルと前年に続き最大であるが、伸び率は13.3%減となり、内戦終了後の5年間で初めてマイナスに転じた。うち住宅物件開発・店舗・オフィスが55.9%増となり、前年の伸び率 (3.9倍) を下回ったものの、引き続き大きな伸びとなった。2012年以降、主にコロombo市内で外資によるホテルや高級コンドミニアム等の建設ラッシュが続いているためである。一方、5年連続でインフラ関連分野の1位だった電話・通信ネットワークは、57.6%減と大幅に減少した。4G LTEによるモバイルブロードバンドが2013年に導入済みで、関連投資が一服したことを反映している。

投資額の21.8%を占める製造業は、7.2%減の3億3,390万ドルだった。同分野への投資は2011年より連続して3億ドル台を維持している。製造業の主要分野である繊維・衣料・皮革製品は7.2%減、食品・飲料・たばこは10.1%減であった。また、その他サービス業の急伸が貢献してサービス業は2.1倍となり、投資額に占める割合は17.0%から33.1%に拡大した。ホテル・レストラン向け投資は一服し、0.6%増と減速した。

国・地域別に見ると、1位は前年に引き続き中国が68.2%増の4億350万ドルとなり、全体の26.4%を占めた。港湾開発や高速道路建設、発電所等のインフラ投資が急増し、2011年の15位から2013年には1位に浮上した。2位の英国 (5.4倍)、3位の米国 (3.6倍) も急増した。英

表4 スリランカの業種別対内直接投資 (FDI)
 <BOI認可企業ベース、実行額、ネット、フロー>
 (単位:100万ドル、%)

	2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率
製造業	360	334	21.8	△7.2
繊維・衣料・皮革製品	103	83	5.4	△19.0
ゴム製品	62	80	5.2	28.5
食品・飲料・たばこ	50	45	2.9	△10.1
紙・紙製品・印刷・出版	2	36	2.4	1,629.0
非金属・鉱物製品	45	30	1.9	△34.3
化学・石炭・石油	52	12	0.8	△77.0
金属加工・機械・輸送機械	17	7	0.5	△58.9
木材・木製品	2	3	0.2	46.0
その他製造業	27	39	2.5	42.9
農業	8	6	0.4	△32.5
サービス業	236	506	33.1	114.2
ホテル・レストラン	68	68	4.5	0.6
IT・BPO	19	25	1.6	28.2
その他サービス	149	413	27.0	177.1
インフラ関連	787	682	44.7	△13.3
住宅物件開発・店舗・オフィス	218	339	22.2	55.9
港湾コンテナ・ターミナル	165	178	11.7	8.4
電話・通信ネットワーク	360	152	10.0	△57.6
発電	5	8	0.5	49.7
燃料・ガス・石油・その他	40	5	0.3	△88.3
合計	1,391	1,528	100.0	9.8

[注] BOI法に基づく認可案件。
 [出所] スリランカ投資庁 (BOI)

国の主要な投資案件は航空、通信、米国は機械リース、リゾートホテル開発であった。

■物流、ホテル開発分野で日本から大型投資

2014年9月には安倍首相が現職の首相として24年ぶりにスリランカを訪問し、関係強化が相互に確認された。

財務省の貿易統計によると、日本の対スリランカ貿易は、輸出が前年比69.2%増の961億4,700万円、輸入が5.0%増の303億6,600万円となった。スリランカへの輸出は輸送用機器と一般機械が全体の81.0%を占め、そのうち中古乗用車が前年比129.2%増の584億8,700万円と急増した。これは既述のとおり、自動車輸入税の減税や円安が背景にある。日本の輸入は、食料品および動物と衣類

表6 日本の対スリランカ主要品目別輸出入<通関ベース>

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2013年		2014年		2013年		2014年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
輸送用機器	394	709	73.7	79.7	食料品および動物	113	118	38.7	4.3
中古乗用車	255	585	60.8	129.2	紅茶	52	60	19.7	15.6
自動車部分品	11	11	1.1	△1.9	まぐろ (生鮮・冷凍)	20	9	3.0	△55.0
一般機械	53	71	7.3	33.3	甲殻類および軟体動物	19	27	8.8	40.1
原動機	12	12	1.3	0.3	衣類および同付属品	57	71	23.5	26.0
建設用・鉱山用機械	11	16	1.7	47.9	衣類	33	39	12.8	19.1
電気機器	25	27	2.8	6.3	メリヤス編みおよびクロセ編み衣類	14	20	6.7	40.9
織物用糸および繊維製品	15	20	2.1	35.4	衣類付属品	3	4	1.5	40.4
織物	10	14	1.4	38.5	ゴム製品	13	15	5.1	16.5
プラスチック	12	25	2.6	116.9	その他の動植物性原材料	17	16	5.4	△2.8
合計 (その他含む)	568	961	100.0	69.2	合計 (その他含む)	289	304	100.0	5.0

[出所] 財務省「貿易統計」

表5 スリランカの主要国・地域別対内直接投資 (FDI)
 <BOI認可企業ベース、実行額、ネット、フロー>
 (単位:100万ドル、%)

	2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率
中国	240	404	26.4	68.2
英国	70	383	25.0	444.6
米国	35	128	8.4	260.9
シンガポール	112	103	6.7	△8.2
オランダ	118	99	6.5	△16.6
モーリシャス	23	98	6.4	333.4
香港	139	74	4.8	△47.0
インド	51	52	3.4	2.5
カナダ	26	42	2.7	57.2
オーストラリア	18	37	2.4	105.5
マレーシア	176	37	2.4	△78.9
アラブ首長国連邦	111	31	2.1	△71.8
日本	38	15	1.0	△60.4
合計 (その他含む)	1,391	1,528	100.0	9.8

[注] BOI法に基づく認可案件。
 [出所] スリランカ投資庁 (BOI)

および同付属品で全体の62.2%を占め、主要品目は紅茶、水産物の甲殻類および軟体動物である。

2014年の日本のスリランカへの対内直接投資は前年比60.4%減の1,490万ドル (BOI認可企業ベース・実行額、ネット、フロー) となった。傾向として進出済みの企業による拡張投資が多く、業種は製造業が中心である。最近の投資例としては、通販大手バルーナが2015年3月に、都市開発局およびアジア・キャピタル・グループ (日本のばんせい証券と業務提携) との合弁により、ゴール地区での総事業費約12億円に上る高級リゾートホテルを開発するプロジェクトについて調印した。間接投資ではあるが、佐川急便を傘下に持つSGホールディングスが2014年6月に、スリランカの物流大手エキスポランカの株式を公開買い付けにより買収 (買付金額約107億スリランカ・ルピー (約84億300万円、当時)) しており、スリランカにおける過去最大級の上場企業買収案件となった。このように外国人観光客が増加中の観光分野や、南アジアにおける物流拠点としての地理的優位性に着目した物流分野への投資は、引き続き有望とみられている。